

## 新発見！ 明治時代のブレスラウ大学（旧ドイツ）製のムラージュが 名古屋大学博物館所蔵皮膚科学のムラージュに存在した

### A new discovery of German-made old moulage specimens from the Nagoya University Museum collection

野崎 ますみ (NOZAKI Masumi)<sup>1)</sup>

バトツェンゲル ツォグゾルマー (BATTSENGEL Tsgzolmaa)<sup>2)</sup>

西口 幸子 (NISHIGUTI Sachiko)<sup>3)</sup>・三矢 保永 (MITSUYA Yasunaga)<sup>3) 4)</sup>

- 1) 名古屋大学博物館 The Nagoya University Museum, Nagoya Japan.
- 2) 名古屋大学情報文化科学研究科 Graduate School of Information Science, Nagoya University, Nagoya, Japan.
- 3) 名古屋大学博物館友の会ボランティア Museum Friends of the Nagoya University Museum, Nagoya, Japan.
- 4) 名古屋産業科学研究所 Nagoya Industrial Science Research Institute, Nagoya, Japan.

#### Abstract

A total of 534 moulage (wax model) specimens are housed at Nagoya University Museum (NUM), which were once extensively used for the dermatology education at the Department of Medicine, Nagoya University. In the course of the archival photographing and re-examination of attached labels of these specimens, we found nine old moulage specimens made by Alfons Kröner of Bleslau University, former German Empire, more than one hundred years ago. This is the first finding of authentic German-made moulages from Japan, and will open a new vista on the exchange history of medical technology between Japan and Germany.

#### はじめに

##### 名大の宝ムラージュ：新発見のいきさつとデジタル撮影

ここで言うムラージュは皮膚科において患者の患部を石膏で型取りし、それを鋳型としてロウで作った皮膚科学の病理模型のことである。ムラージュはカラー写真が開発普及されていなかった時代に皮膚科の医学教育に使われた（野崎，2013）。

名古屋大学博物館所蔵のムラージュコレクションは、西田ら（2003）が撮影、調査、標本番号の記載を行ったが、病名の検証にとどまり、製作者や年代等については、詳しい調査がされておらず、ムラージュの保存状態の良さから比較的時代が新しい物と考えられていた。また、名古屋大学博物館のムラージュ製作者は、ほとんどが長谷川兼太郎によるもので、その中に数点の彼の師である伊藤有のものが混じっていると考えられていた。

2013年8月6日～10月19日に「本物？作り物？ロウ細工？教育標本ムラージュ」と題して名古屋大学博物館企画展を行った（野崎，2013）。その企画展を準備する際に、野崎は初めて収蔵品の全容を西田らの写真で知った。これらの写真は、良く撮れてはいたが、解像度が低くフォーカスの甘いものがあった。名古屋大学のムラージュは、2001と2002年に医学部から移管された後、一部は博物館常設展として展示し、それ以外は紙で包み収納用のボックスに保管されていた。その一部を開けてみると保存状態の良いものに混じって、経年による壊れや変色、またホコリだらけの物、カビだらけの物などもあり、

今後も時間経過と共に劣化が進むであろうと推測された。そこで、医学教育標本のアーカイブとして現時点の詳しい記録撮影を行うことが急がれた。

2014年初夏から秋にかけて、野崎が中心となり撮影を三矢、撮影補助をバトツェンゲル、標本の開封再梱包と梱包材への標本番号の書き入れを西口と野崎、調査メモを野崎（一部バトツェンゲル）と分担して、流れ作業で高精度写真撮影が行われた。

この撮影に合わせて行った簡単な調査の内容は、ムラージュの劣化の状態の記載とムラージュ台木に記載されている文字の転記であった。その結果、当初、国産とばかり思われていたムラージュの中に、明治末期に Alfons Kröner によって製作された旧ドイツ、Breslau（ブレスラウ）大学製があった事を発見した。

### 標本の撮影装置と撮影条件

標本の撮影には、標本撮影装置（株式会社杉浦研究所製 SL MPS-VN）およびデジタル一眼レフカメラ（ニコン製：ボディ、D800E；レンズ、AF-S NIKKOR 24-70 mm f/2.8G ED）を使用した。SL MPS-VNは、カラー写真専用蛍光灯（100V-27W）二つを光源として、それぞれを左右から傾斜角を付けて標本に照射し、標本の真上にカメラを設置するように構成した。これは主として標本を撮影するための装置である。カメラ位置の高さは、あらかじめ最大サイズの標本が撮影可能な最接近位置に固定し、これより小さい標本は、ズームと標本の嵩上げによって、標本がおおむね画面いっぱいになるように調整した。標本とともに、規準カラスケールと物差しを同時に写し込んだ（図1）。デジタルカメラの撮影条件は、次のとおりである。撮影画素数：7360×4912ピクセル（サイズL, 3615万画素）、画質モード：RAW（14 bit 記録）+FINE（約1/4圧縮）、ISO感度：3200、測光モード：平均測光絞り優先オート露光、絞り設定値：F=22、ホワイトバランス：昼白色蛍光灯（約5000 K）。標本ごとに最適露光条件が異なるが、作業の効率化のために、オートブラケティング（BLK）機能を使用し、バイアスの露光設定値を+0.7、BLKを3段、各段のEV値の差を0.7とした。

### 調査結果とその解釈

- 1, ラベル（樹脂製）『ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED. LEHRMITTEL BRESLAU. XVI.』—旧ドイツ、ブレスラウ製。

標本番号 NUM- Ww 315-319, 380-383 計9点。

まず目を引いたのがドイツの Breslau（ブレスラウ）大学（=現在のポーランドの Wrocław（ヴロツワフ）大学）製のムラージュの存在である（図1）。

このブレスラウ大学でのムラージュ作りには、日本にムラージュ作りを持ち込んだ東京帝国大学の初



図1. 撮影したムラージュの写真。

代皮膚泌尿器科の教授土肥慶蔵（1866～1931）が関わっている。当時留学中であった土肥は、ムラージュの重要性にいち早く気づき、ウィーン大学で Carl Henning（カール・ヘニング：1860～1917）からムラージュ作りの技術を学んだ。その後、土肥はブラスロウ大学の Albert Nisser（アルベルト・ナイセル：1855～1916）から乞われてブレスラウ大学にこのムラージュ技術を伝えた（小野，2001）。その後ブレスラウ大学では、1887～1937年に約2700個のムラージュを製作して主にドイツ語圏内に寄贈または販売していた（上野，2000）。ラベル



図2. ブレスラウ大学製を示すラベル.

BRESLAU XVI.』と記載があった(図2). このラベル記載は上野(2000)の報告と酷似することから, Alföns Kröner(アルホンス・クレーナー: 不明~1937)によってブレスラウ大学で作られた1910~1937製のムラージュ9点が名古屋大学博物館に現存していることが判明した.

この当館所蔵のドイツ製ムラージュの発見は名古屋大学だけではなく, 日本における科学史の新見解\*1として, きわめて重要である.

\*1) 外国製のムラージュの報告は, 土肥慶蔵が2個を欧州留学から持ち帰った(小野, 2001)とあるが, 現存しているかは, 不明.

2. 書き込み(青色)『Dr. Kusunoky』(図3) …台木の裏側にメモのように書かれている.

標本番号はブレスラウ製ムラージュと同一.

ブレスラウ製のムラージュの台木の裏に, Dr. Kusunokyと番号と共に書き込まれている(図3, 4). Kusunokyとはロシア名であるようにも思えたが, 素直に日本語で読むと「クスノキ」と読める. 愛知県立医学専門学校皮膚病花柳病科の初代教授 楠太くすのみとしのことに他ならない(『名古屋大学人事記録(履歴)』: 楠太). これらの標本は, 楠が製作した物ではなく, 後述のように楠が留学先から持ち帰った物と推測される.

3. ラベル(紙)『明治大正(1913年)式年五月調 皮膚花柳科』(図4), 『大正式年五月調 皮膚花柳科』(図5) …ブレスラウ大学製のムラージュの入手経路と製作時代の検証. 標本番号はブレスラウ大学製のムラージュと同一.

文字を確認できた一番古いラベルの年紀が, 『明治大正式年五月調 皮膚花柳科(朱印)』(1913年)であった(図4). このラベルもドイツ製のムラージュの台木の裏にも貼ってあり, 大正を手書きしているラベル(図5)と印刷された明治を大正に書き直して使用しているラベル(図6)の2種類があった. 1913年とは前出の楠太が愛知県立医学専門学校の教授であり, 欧州留学を終えた翌年である(愛知県立医学専門学校校友会, 1910a, 1910b, 1911, 1912a). 楠は1910年(明治43)年4月から1912年(明治45)年7月まで欧州留学を行い(編者不明, 1947: 『山菊』), 1910年10月から1912年に帰国するまでの間ブレスラウ大学のナイセル教授の下で, 研究を行っていた(愛知県立医学専門学校校友会, 1910a, 1910b, 1911, 1912a). これから推察すると, 楠が留学中に当然目にしたである

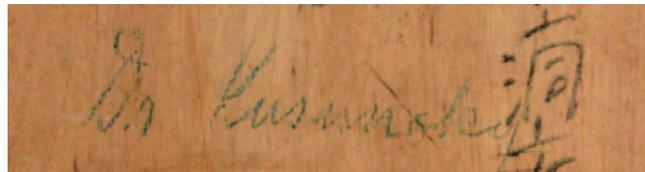


図3. 楠を表す書き込み.



図4. 楠の書き込み(青線)と大正2年5月を示すラベル(赤印).



図5. 手書きの大正ラベル.



図6. 明治を大正に直したラベル.

う皮膚病のムラージュを、名古屋での教育のために寄贈を受けたか、購入をして持ち帰ったと考えられる。

ラベルの記載が楠の帰国した1912年7月ではなく、11ヶ月後の1913（大正2年）5月であることは、当時、欧州から日本まで船便で約2ヶ月かかることや、楠が帰国後病気に罹り、学校を休んでいる（愛知県立醫學専門学校校友会，1912b）ことなどが考えられる。さらに前述のプレスラウ大学のラベル（図2）により1910～1937年の間に製作されたムラージュであることが明らかになった。これは、楠のプレスラウ留学の年1910～1912とも重なる。ラベルから判明した製作年代と楠の帰国時期から考えて、製作年代を明治末期の1912年前後と結論付けた。

#### 4. ラベル（革）『東京醫科大學 皮膚科教室 伊藤有製作』 図7…黒い革製のラベルに金書き。

標本番号MUM-Ww178, 180, 191, 279, 281, 391, 400, 455 計8点。

名古屋大学博物館に伊藤有製ムラージュがあることは、以前から知られていたが、ここで改めて検証する。日本に初めてムラージュを持ち込んだ土肥慶三は、1901年より伊藤有（1864～1934）にその製作を任せた、伊藤有はさらに工夫を加えて、芸術の域に達するようなムラージュを作った。ムラージュは当時各大学の医学部で使用されていたが、その制作には少なくとも1回はどこかで伊藤有が関わっている（長門谷，1991）。名古屋大学博物館の伊藤有製作のムラージュがいつ作られたか詳細は不明であるが、少なくとも伊藤有の愛弟子長谷川兼太郎（上野，2010）が愛知医学校に赴任してからは、長谷川がムラージュを製作していたので、それ以前に製作したと考えられる。この事から推察すると1901～1916年（明治34年～大正5年）の間に製作されたと考えられる。また、伊藤有はムラージュの販売も行っていたので（上野，2010），寄贈された物か買い求めた物かは不明である。なお長谷川が満州医科大学に籍を移した時期は、里帰りのたびに名古屋へ立ち寄って、ムラージュの製作、修復を行った。さらに、名古屋大学を退職した後も修復を手がけた（大橋，1995；長谷川（編），1954）。

#### 5. ラベル（金属）『昭和6年5月1日名古屋医科大學附属病院』 図8…金属ラベルに印刷と押し型数字。

標本番号等はリストを参照（表1）。

昭和6年5月（1931）付けのラベルが存在した（図8）。このラベルとさらに古いラベルと一緒に貼ってある標本も存在した（NUM-Ww 383）。昭和6年5月1日は愛知医学校が官立名古屋医学大学に改組された時なので、これは、以前からあったムラージュを改組のため登録し直したと考える。



図7. 伊藤有製作ラベル。



図8. 昭和6年5月1日を示すラベル。

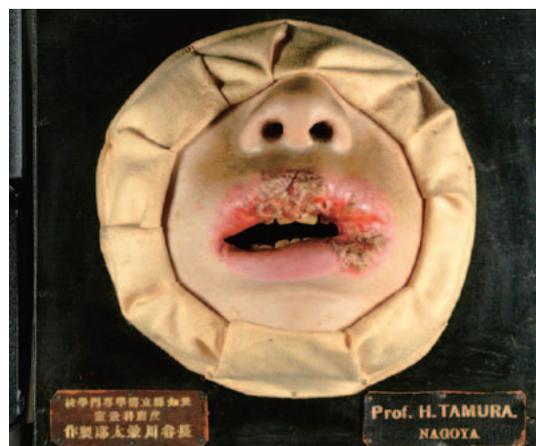


図9. 田村と伊藤，両名のラベル。

6, ラベル(革製)『Prof. H. TAMURA NAGOYA』 図9…黒の革製のラベルに金書き.

ラベル(革製)『愛知縣立醫學専門學校 皮膚科教室 長谷川兼太郎製作』 図9…茶の革製ラベルに金書き.  
標本番号 NUM-Ww 534 1点

『Prof. H. TAMURA NAGOYA』と同時に『愛知縣立醫學専門學校 皮膚科教室 長谷川兼太郎製作』のラベルがあるムラージュが1点存在した. 田村春吉は, ムラージュの制作者長谷川兼太郎をつれて東京帝国大学から愛知縣立醫學専門學校に赴任してきた皮膚病花柳病科の二代教授で, 後に帝国名古屋大学の総長となった. ラベルが田村春吉を指していることは間違いない. ただし, 田村が長谷川と一緒に製作したものか, あるいは, 田村の下で長谷川が製作したかは不明である.

7, 長谷川兼太郎の裏書き, 補修の跡 図10, 11…標本番号はリスト参照 (表1).

ムラージュの中には, 補修をした記述が, 台木の裏に残されているものがある. 「白布更新, 表面清洗, 内部補強」等の言葉が並び, 手を加えたことを分かるようにしてある(図10). 特に標本 NUM-Ww 380は, 『昭和32年8月20日他ノ舶来品ト共ニ補強並ニ白布附換へ』(図11)とあるので, 1954年(昭和32年)時点では, 外国製のムラージュの認識があったようだ. 補修の年月も記述してあるが, どれも戦後であることから長谷川兼太郎が補修を行い記述したと考えられる. ただし, 長谷川は弟子を取ることをしなかった\*2ため, どのように手を加えたかの詳細は不明である. 名古屋大学のムラージュが, 他大学ムラージュに比べて程度が良いと言われているのには, 長谷川が, 日本でムラージュづくりの名手であったことに加えて, ムラージュを大事にし, 補修を行ったからと考えられる.

\*2) 長谷川兼太郎の晩年は娘である本間(長谷川)七葉が, 長谷川の補助をした(長門谷, 1991; 『名古屋大学人事記録』: 本間七葉).

8, ラベル…プレスラウ大学製のムラージュの病名表記 図12.

標本番号はプレスラウ製のムラージュと同一.

病名については, 2004年西田らが報告で詳しく記しているので, ここでは追記として, プレスラウ大学製のムラージュのラベルについて報告する. プレスラウ大学製のムラージュに記されている病名ラベルは『Dermatolog Klinik Breslau』と印刷された下に手書き病名が続く. これは, Breslauの印刷があることから, ムラージュを作った現地で書き入れられたと考える. ドイツ語の病名を書き入れたのはプレスラウで, 日本語の病名は後年日本で書き入れられたと考える.

9, ラベル(紙)…標本番号は, リスト参照 図13, 表1.

古い紙のラベルで台木の裏側に『十二年九月

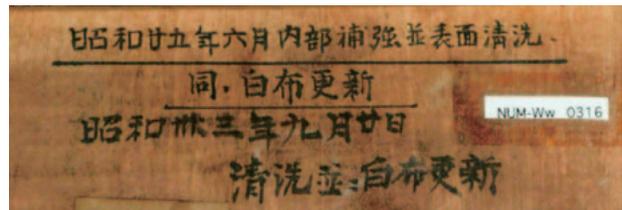


図10. 補修を示すラベル.



図12. プレスラウで書かれたラベル(下)と日本で書かれたラベル(上).



図11. 舶来品の文字がある補修を示すラベル.



図13. 12年9月を示すラベル.

蠟製模型』とある。12年9月は、いつを指すのか？ 1912年を縦書きにして省略するとはまず考えられない。明治12年にはムラージュの技術が日本に存在していなかったため、明治ではない。すると大正もしくは昭和ということになる。大学史と見くらべてみても、この年の前後には大学の改組等もないので、現時点ではラベルの存在の報告だけに留めておく。

### 終わりに

旧ドイツのブレスラウで製作された皮膚科学のムラージュ約2700点のうち、少なくとも9点が遠く離れた名古屋大学の皮膚科の授業でも使われ、その後時代を経て、名古屋大学博物館に収蔵されていることは、医学史においても貴重である。ドイツ・ブレスラウ大学のナイセル教授の下には、土肥慶蔵、楠太だけではなく当時多くの日本人研究者が留学をしている。そう考えるとドイツ製のムラージュが他の日本の医療系教育機関にも存在していたとしても不思議ではない。

これらムラージュ標本が100年以上経った現在でも比較的良い状態で名古屋大学博物館に保存されているのは、第2次世界大戦中の空襲でも、学内の消防班により皮膚科の建物が守られたこと（長谷川、1954）に加えて、ムラージュ作り最後の匠として、長谷川兼太郎が愛知医学校時代から国立名古屋大学時代まで（『名古屋大学人事記録』：長谷川兼太郎）、さらには退職した後までも長年にわたってムラージュの製作、補修を手がけたことが大きい（大橋、1995）。

また、今回の調査は、高精度のデジタル撮影が第一の目的だったため、ムラージュの台木に残っていたすべての記述を完全に網羅できたわけではない。この点においては、さらなる詳しい調査が望まれる。

さらに、今回のデジタル撮影した写真をどのように公開するかは未定である。ムラージュは人の患部を型として製作した人体の写しであるため、倫理上の問題がある。東京大学総合研究博物館では、ムラージュをご遺体と同等と考え、研究者でも見ることが難しい。北海道大学博物館では、名古屋大学博物館と同じく常設的に展示を行っている。九州大学総合博物館では、デジタル画像をweb上で誰でも見ることが出来る様になっている。金沢大学資料館でも規制をかけてweb上でデジタル画像を公開している。名古屋大学博物館としてもweb上での公開については、今後の検討が待たれる。

### 謝辞

名古屋大学医学部で、廃棄寸前のムラージュの価値を見いだして、保管をした小林身哉金城学院大学名誉教授（当時名古屋大学助教授）、その整理を最初に行った尾坂知江子名古屋市科学館学芸員と津市の金景子さん、さらに博物館へ移管後、写真撮影を行った伊藤裕司医師（当時名古屋大学医学部3年生）、名古屋大学博物館で管理を行っている西田佐知子名古屋大学准教授、今回メモの整理をしてくれた松本晃子さん、報告を書くにあたってアドバイスを頂いた石原あえか東京大学准教授、快く資料の検索及び提供をして下さった名古屋大学資料室掘田慎一郎特任助教、稚拙な本編を細かくチェックして下さい編集者と査読者、皆様をここに記して深く感謝をいたします。また、医学教育のために、ムラージュの製作に協力して下さい多くの患者様に敬意を表します。

### 引用文献

愛知縣立醫學専門學校校友会（1910a）通信動靜．愛知県立醫學専門學校校友会雑誌，**26**，100（明治43年6月発行）。

愛知縣立醫學専門學校校友会（1910b）通信動靜．愛知県立醫學専門學校校友会雑誌，**27**，148（明治43年12月発行）。

愛知縣立醫學専門學校校友会（1911）通信動靜．愛知県立醫學専門學校校友会雑誌，**28**，123, 125, 127-128（明

治44年7月発行).

愛知縣立醫學專門學校校友会 (1912a) 通信動靜. 愛知縣立醫學專門學校校友会雜誌, **30**, 128 (明治45年6月発行).

愛知縣立醫學專門學校校友会 (1912b) 會員動靜. 愛知縣立醫學專門學校校友会雜誌, **31**, 72 (大正元年12月発行).

上野賢一 (2000) 随想 Von Dem Grau Bis Zum Bunt (75) ムラージュの歴史 (2). 皮膚臨床, **42**, 429-431.

上野賢一 (2010) 随想「李太郎」落ち穂拾い (20) —李太郎と兼太郎 (1) —. 皮膚臨床, **52**, 1103-1107.

大橋勝 (1995) ムラージュと皮膚科. 名大医学部学友時報, **551**, 2.

小野友通 (2001) 日本のムラージュ. 日本皮膚科学会雑誌, **111**, 651-657.

長門谷洋治 (1991) 皮膚疾患ムラージュ —アンケート調査と史的展望—. 皮膚病診療, **13**, 248-254.

名古屋大学. 名古屋大学人事記録 (名古屋大学文書資料室所蔵).

西田佐知子・小林身哉・安立あゆみ・伊藤裕司・市村卓也・金 景子 (2003) 名古屋大学医学部から博物館へ移管されたムラージュの標本の一覧. 名古屋大学博物館報告書, **19**, 87-104.

野崎ますみ (2013) 教育標本ムラージュ 本物? 作り物? ロウ細工? 第27回名古屋大学博物館企画展展示図録. 名古屋大学博物館.

長谷川兼太郎 (編) (1954) 田村春吉 (追悼文集). 名古屋大学医学部皮泌科春光同門会.

編者不明 (1947) 『山菊』楠太追悼誌 (名古屋大学文書資料室所蔵).

表 1. ムラージュのリスト (西田ら, 2003 の追記) —保存状態とラベル等の記載文字—

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 001	良		
NUM-Ww 002	良 変色 汚れ		
NUM-Ww 003	良 汚れ		
NUM-Ww 004	良		
NUM-Ww 005	良	右手と左手 2標本	
NUM-Ww 006	2 cm 耳割れ		
NUM-Ww 007	カビ 変色		
NUM-Ww 008	良 変色		
NUM-Ww 009	良		
NUM-Ww 010	良 φ 3 cm はがれ		
NUM-Ww 011	耳割れ 変色		
NUM-Ww 012	良 変色		
NUM-Ww 013	変色大		
NUM-Ww 014	変色大		
NUM-Ww 015	良 変色		
NUM-Ww 016	良		
NUM-Ww 017	良 汚れ		
NUM-Ww 018	良 カビ大		
NUM-Ww 019	良		
NUM-Ww 020	良 キズ4カ所		
NUM-Ww 021	良		
NUM-Ww 022	変色 φ 4 cm はがれ		
NUM-Ww 023	良 変色 φ 1 cm はがれ		
NUM-Ww 024	変色 はがれ少量		
NUM-Ww 025	カビ 変色		
NUM-Ww 026	良		(表面) **昇37.5.4
NUM-Ww 027	変色 カビ少々 良		
NUM-Ww 028	良 カビ少々		
NUM-Ww 029	良 変色		
NUM-Ww 030	良 変色		
NUM-Ww 031	良 変色		
NUM-Ww 032	良 φ 1 cm ヒビ		
NUM-Ww 033	良 φ 1 cm フレ 変色		(表面) ***さ41才海部郡八開村開始
NUM-Ww 034	良 変色		
NUM-Ww 035	良 変色		
NUM-Ww 036			
NUM-Ww 037	良		
NUM-Ww 038	汚れひどい		
NUM-Ww 039	良		
NUM-Ww 040	良		(表面) ***子37.6.15
NUM-Ww 041	良 φ 0.3 cm ほどのキズ		
NUM-Ww 042	良 類に1 cm のキズ, 他に5カ所		
NUM-Ww 043			
NUM-Ww 044	良 2カ所破損		
NUM-Ww 045	汚れひどい		
NUM-Ww 046	良		
NUM-Ww 047	良 2カ所破損		
NUM-Ww 048	良		
NUM-Ww 049	良		
NUM-Ww 050	良		
NUM-Ww 051	良 5カ所 破損		
NUM-Ww 052	2カ所破損 変色		
NUM-Ww 053	良 10 cm フレ		
NUM-Ww 054	良		昭和33年9月補修並ニ白布更新
NUM-Ww 055	良		
NUM-Ww 056	良		昭和6年5月3号 名古屋医科大学付属病院
NUM-Ww 057	良		
NUM-Ww 058	良 0.3 cm 破損		
NUM-Ww 059	良 φ 5 cm へこみ		
NUM-Ww 060	良		
NUM-Ww 061	良		
NUM-Ww 062	良 2カ所はがれ		
NUM-Ww 063	良 4カ所色はがれ		
NUM-Ww 064	良 数mm はがれ		
NUM-Ww 065	良 数mm はがれ		
NUM-Ww 066	良		
NUM-Ww 067	良 数cm はがれ		
NUM-Ww 068	良 6カ所数mm色はがれ		
NUM-Ww 069	良 3カ所色落ち		
NUM-Ww 070	良 色落ち数カ所		
NUM-Ww 071	良 数cmこすり後2カ所		

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 072	良 数mmはがれ		
NUM-Ww 073	良		
NUM-Ww 074	良 数mm 4カ所色落ち		
NUM-Ww 075	良 汚れ大		
NUM-Ww 076	良 全体に色抜け		
NUM-Ww 077	良 ごく軽いこすれ		
NUM-Ww 078	良 ごく軽いこすれ		
NUM-Ww 079	良		
NUM-Ww 080	良		
NUM-Ww 081	良 色抜け		(表面) *山, *浦
NUM-Ww 082	片方は大きな壊れ	2標本	(表面) ■田T-265使用 (マーブーン剤)
NUM-Ww 083	3 cmの陥没, 10 cmのヒビキズ数カ所		
NUM-Ww 084	良		
NUM-Ww 085	良		(表面) ***子 37.5.23
NUM-Ww 086	良		
NUM-Ww 087	良		
NUM-Ww 088	良 黒く変色		
NUM-Ww 089	良 数mmはがれ1カ所		
NUM-Ww 090	良		
NUM-Ww 091	2 cmはがれ3カ所		
NUM-Ww 092	変色大		
NUM-Ww 093	変色大		
NUM-Ww 094	変色大		
NUM-Ww 095	変色大		
NUM-Ww 096	良		
NUM-Ww 097	汚れ大 3 cmはがれ		
NUM-Ww 098	変色 数mmはがれ数カ所		
NUM-Ww 099			
NUM-Ww 100			
NUM-Ww 101			
NUM-Ww 102	良		
NUM-Ww 103	良		
NUM-Ww 104	良 一部色はがれ		
NUM-Ww 105	良 色が濃く変色		
NUM-Ww 106			
NUM-Ww 107	良 0.5 cmの穴1カ所		
NUM-Ww 108	良 変色		
NUM-Ww 109	全体にカビ		名古屋医科大学付属病院 昭6/5/1
NUM-Ww 110	良 カビ数カ所 鼻1 cmはがれ		
NUM-Ww 111	良		昭和33 9月 補修並ニ白布更新
NUM-Ww 112	良 変色		
NUM-Ww 113	良 少しキズ		
NUM-Ww 114	良		
NUM-Ww 115	良 φ 1.5 cmはがれ		
NUM-Ww 116	良	天然痘	
NUM-Ww 117	良 キズナシ		
NUM-Ww 118	良 キズ最少		
NUM-Ww 119	良 変色		
NUM-Ww 120	良 変色 カビ		
NUM-Ww 121	良		
NUM-Ww 122	良 ツメ1 cm壊れ		
NUM-Ww 123	良		
NUM-Ww 124	良 変色		
NUM-Ww 125	良 変色少し		
NUM-Ww 126	良		12 9月蠟製 疹模型
NUM-Ww 127	良 変色		
NUM-Ww 128	良 細かいキズ 変色		
NUM-Ww 129	良		
NUM-Ww 130	良 5 cmへこみ	2標本	
NUM-Ww 131	良		
NUM-Ww 132	良 色黒く変化		
NUM-Ww 133	良		
NUM-Ww 134	良		
NUM-Ww 135	良 数mm色はがれ4カ所		
NUM-Ww 136	良		
NUM-Ww 137	良		
NUM-Ww 138	良		
NUM-Ww 139	良 カビ		
NUM-Ww 140	良 カビ		
NUM-Ww 141	良 カビ		
NUM-Ww 142	良		

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 143	カビ 中指と薬指のかけ		
NUM-Ww 144	良		
NUM-Ww 145	良 カビ		
NUM-Ww 146	良 カビ		
NUM-Ww 147	良		
NUM-Ww 148	良		
NUM-Ww 149	良		
NUM-Ww 150	良 色はがれ数カ所		
NUM-Ww 151	良		
NUM-Ww 152	良		
NUM-Ww 153	良 変色濃い		
NUM-Ww 154	良		
NUM-Ww 155	良		
NUM-Ww 156	良		
NUM-Ww 157	良		
NUM-Ww 158	色黒い		
NUM-Ww 159	色黒い		
NUM-Ww 160	色黒い		
NUM-Ww 161	色黒い		昭和33 9月 補修並ニ白布更新
NUM-Ww 162	良		
NUM-Ww 163	色黒い 1cmほどキズ3カ所		
NUM-Ww 164	良		
NUM-Ww 165	良 色黒い 1mm~1cmキズ3カ所		
NUM-Ww 166	良 色黒い		
NUM-Ww 167	良 色黒い 1cm色はげ		
NUM-Ww 168	良 カビ 5cmキズ		
NUM-Ww 169	良 色黒い		
NUM-Ww 170	良 少し変色		
NUM-Ww 171	良		
NUM-Ww 172	良 キズ4カ所		
NUM-Ww 173	良 色黒い		13年 4月 (チョーク書き)
NUM-Ww 174	良 色はげ1カ所		
NUM-Ww 175	色黒い 1cmと2cm色はげ		
NUM-Ww 176	良 6カ所こわれとはげ		
NUM-Ww 177	良 色黒い 2mm色はげ		
NUM-Ww 178			(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作
NUM-Ww 179			12年9月9日, 名古屋医科大学付属病院昭和6年5月1日
NUM-Ww 180			(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作
NUM-Ww 181	良 1.5cmはがれ 色落ち2カ所		
NUM-Ww 182	良 はがれたあと, ホコリ		
NUM-Ww 183			12年9月 蠟製模型
NUM-Ww 184	良		
NUM-Ww 185	良		
NUM-Ww 186	良		
NUM-Ww 187	良		
NUM-Ww 188	良		
NUM-Ww 189	2cmはがれ2カ所 キズ2カ所		
NUM-Ww 190	良		
NUM-Ww 191			(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有 (写真記載なし) 名古屋医科大学付属病院昭和6年5月1日
NUM-Ww 192	良 カビ		
NUM-Ww 193	良 色黒い		
NUM-Ww 194	良 2cmはがれ1カ所		
NUM-Ww 195	良		
NUM-Ww 196	良		
NUM-Ww 197	良 カビ		
NUM-Ww 198	良		
NUM-Ww 199	良 色黒い		
NUM-Ww 200	良		
NUM-Ww 201	良 1cmキズ2カ所		
NUM-Ww 202	良	(台木が外れる)	
NUM-Ww 203	良 色黒い 5mmキズ2カ所		(裏面) 名古屋医科大学付属病院昭和6年5月1日 12年9月第26号蠟製模型
NUM-Ww 204	良 色黒い		
NUM-Ww 205	良 色黒い 色ハガレ3カ所数mm		
NUM-Ww 206	良 色少々黒い		
NUM-Ww 207	良 色少々黒い 数mm色オチ数カ所		

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 208	良 色少々黒い 15 cmワレ		
NUM-Ww 209	カビ 10 cmワレ		(裏面) 昭和33年9月補修並ニ白布更新 カビ ワレ10 cm
NUM-Ww 210			
NUM-Ww 211	良 色黒い		
NUM-Ww 212	良		
NUM-Ww 213	良 色黒い		
NUM-Ww 214	良 色黒い		
NUM-Ww 215	良 数mm ハガレ3カ所		
NUM-Ww 216	良		
NUM-Ww 217	良		
NUM-Ww 218	良 カビ 色黒い		
NUM-Ww 219	良 色黒い		
NUM-Ww 220	指4本欠損, カビ		
NUM-Ww 221	良 色黒い		
NUM-Ww 222	数mm キズ数カ所 2 cmハガレ2カ所		
NUM-Ww 223	色オチ8カ所		
NUM-Ww 224	良	225と同一人物の右手	
NUM-Ww 225	良	224と同一人物の左手	
NUM-Ww 226	良	右足224, 225と同一人物か?	
NUM-Ww 227	良		
NUM-Ww 228	良 色黒い		
NUM-Ww 229	良 色黒い		
NUM-Ww 230	良 色黒い		(裏面) 名古屋医科大学付属医院昭和6年5月1日備品番号14 名古屋 医科大■皮膚■ (皮膚花柳科の朱印か?) 第14号昭和6■
NUM-Ww 231	良		
NUM-Ww 232	良		
NUM-Ww 233	良 キズ2カ所		
NUM-Ww 234	良 色黒い 5 cmワレ		
NUM-Ww 235	良 0.5 cm色オチ2カ所		
NUM-Ww 236	良		
NUM-Ww 237	良		
NUM-Ww 238	良 色黒い		
NUM-Ww 239		3標本 -1 右手, 新しい -2 -1と同じ, 古い -3 左手	
NUM-Ww 240	良 色黒い カビ		
NUM-Ww 241	良		
NUM-Ww 242	良		
NUM-Ww 243	良	同じもの有り	(表面) ***和
NUM-Ww 244	良		(表面) ***美
NUM-Ww 245	良		(表面) ***子
NUM-Ww 246	良		(表面) ***美子
NUM-Ww 247	良 染み		(表面) ***子
NUM-Ww 248	良		(表面) ***子
NUM-Ww 249	良		
NUM-Ww 250	良 色黒い		
NUM-Ww 251	良		
NUM-Ww 252	良		
NUM-Ww 253	良		
NUM-Ww 254	良		
NUM-Ww 255	良 カビ		(裏面) 昭和33年9月21日 洗滌補修白布更新
NUM-Ww 256	良		
NUM-Ww 257	良 指ハガレ カビ		
NUM-Ww 258	良 色ハガレ少々		
NUM-Ww 259	良		
NUM-Ww 260	良		(写真記載なし) 昭和33年9月21日洗滌補修, 白布更新
NUM-Ww 261	良		
NUM-Ww 262	良		
NUM-Ww 263	良		
NUM-Ww 264	良 カビ		
NUM-Ww 265	良		
NUM-Ww 266	良 色黒い		
NUM-Ww 267	良 ハガレ		
NUM-Ww 268	良 色黒い		
NUM-Ww 269	良		
NUM-Ww 270	良		
NUM-Ww 271	良 φ3 cmワレ		
NUM-Ww 272	良 カビ		
NUM-Ww 273	良		

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 274	眉 2 cmハガレ		
NUM-Ww 275	左足指ハガレ2本		
NUM-Ww 276	良		
NUM-Ww 277	良		
NUM-Ww 278	良		
NUM-Ww 279	良		(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作
NUM-Ww 280	良 数mm色ハガレ		
NUM-Ww 281	良		
NUM-Ww 282	良 色黒い カビ		(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作
NUM-Ww 283	良		(裏面) 名古屋医科大学付属医院昭和12年2月19日備品番号298
NUM-Ww 284	良 φ 1 cm, φ 3 cmハガレ		
NUM-Ww 285	良		
NUM-Ww 286	良	長谷川の最後の作品が疑われる	
NUM-Ww 287	良		
NUM-Ww 288	良 色黒い 10 cm, 3 cmフレ		
NUM-Ww 289	良 0.5 cmフレ		
NUM-Ww 290	良		
NUM-Ww 291	良 色黒い		
NUM-Ww 292	良 色黒い		
NUM-Ww 293			
NUM-Ww 294	良 色黒い		
NUM-Ww 295	良		
NUM-Ww 296	良 色黒い		
NUM-Ww 297	良 0.5 cmハガレ		
NUM-Ww 298	良 色黒い 4 cmキズ		
NUM-Ww 299			
NUM-Ww 300	良	長谷川の最後の作品が疑われる	
NUM-Ww 301	良 1 cmフレ		
NUM-Ww 302	良		
NUM-Ww 303	良		(裏面) 12年9月第20号■製模型 名古屋医科大学付属医院第240号昭和6年5月1日
NUM-Ww 304	良		
NUM-Ww 305	良		
NUM-Ww 306	良		
NUM-Ww 307	良		
NUM-Ww 308	良		
NUM-Ww 309	良 色濃い		
NUM-Ww 310	良 色濃く		
NUM-Ww 311	良		
NUM-Ww 312	良 色黒い		
NUM-Ww 313	良		
NUM-Ww 314	良		
NUM-Ww 315		315~319同じ時代の資料	(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 大正2年5月調第 80号皮膚花柳科191Dr. Kusunoky
NUM-Ww 316	6 cm コワレ2ヶ所	315~319同じ時代の資料	(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 明治■年5月調第 79号皮膚花柳科■55 ■kus ■ky 昭和25年6月内部補強並表面清洗。 同。白布更新 昭和33年9月20日清洗並ニ白布更新
NUM-Ww 317		315~319同じ時代の資料	(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 大正2年5月第78 号皮膚花柳科306Dr. Kusunoky 昭和6年5月1日名古屋医科大学附属 医院備品番号245 昭和32年8月更新
NUM-Ww 318	変色	315~319同じ時代の資料	(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. ■ (Dermatolog. klinik Breslau. か?)
NUM-Ww 319	φ 2 cmハガレ	315~319同じ時代の資料	(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. Klinik ■ (Dermatolog. klinik Breslau. か?) (裏面) 大正2年5月調第75号皮膚花柳科686Dr. Kusunoky
NUM-Ww 320			
NUM-Ww 321	良		
NUM-Ww 322	良		
NUM-Ww 323	良		
NUM-Ww 324	良	324, 325明るさ違い	
NUM-Ww 325	良	324, 325明るさ違い	
NUM-Ww 326	良		
NUM-Ww 327	良		
NUM-Ww 328	良 変色		
NUM-Ww 329	良		
NUM-Ww 330	良 台せる		
NUM-Ww 331	最上 良		
NUM-Ww 332	良		
NUM-Ww 333	良		(表面) * * *つ20才海部郡八開村開始

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 334	変色 乳頭キズ		
NUM-Ww 335	中指破損		
NUM-Ww 336	良 変色		
NUM-Ww 337	良		
NUM-Ww 338	変色		
NUM-Ww 339	欠		
NUM-Ww 340	両足 1 cm キズ2カ所		
NUM-Ww 341	良 変色 カボシー		
NUM-Ww 342	良 変色		
NUM-Ww 343	良		
NUM-Ww 344	良		
NUM-Ww 345	良		
NUM-Ww 346	良 変色 少し黄色		
NUM-Ww 347	良		
NUM-Ww 348	良 変色		
NUM-Ww 349	良		
NUM-Ww 350	良		
NUM-Ww 351	良 微細なキズ 変色		
NUM-Ww 352	良 変色		
NUM-Ww 353	良 少しカビ		
NUM-Ww 354	良 キズ2ヶ所 φ 2 cm ハガレ		
NUM-Ww 355	良		
NUM-Ww 356	良		
NUM-Ww 357	良		
NUM-Ww 358	良 両手 微細キズ5ヶ所		
NUM-Ww 359	良 φ 2 cm 色オチ2ヶ所		
NUM-Ww 360	順番が違い明さ注意 変色 色落ち微細		
NUM-Ww 361	良		(裏面) ***歳26才 (32.11.9)
NUM-Ww 362	良 変色少し		
NUM-Ww 363	良		
NUM-Ww 364	変色 良		
NUM-Ww 365	良 変色		
NUM-Ww 366	良 変色 色ハガレ8ヶ所		
NUM-Ww 367	良 変色		
NUM-Ww 368	良 カビ		
NUM-Ww 369	良 よごれ		
NUM-Ww 370	良 カビ		(裏面) 名古屋医科大学付属医院 第18■号 (チョーク書きで187号)
NUM-Ww 371	良 変色		
NUM-Ww 372	良 変色		(裏面) 名古屋医科大学付属医院第188号皮膚花柳
NUM-Ww 373	良		(裏面) 名古屋医科大学付属医院昭和6年5月5日備品番号215
NUM-Ww 374	良 右左		
NUM-Ww 375	良 変色		
NUM-Ww 376	良		
NUM-Ww 377	良 右左 最良好		
NUM-Ww 378	良		
NUM-Ww 379	良 少しカビ		
NUM-Ww 380	変色		(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 明治大正2年5月 調第704号皮膚花柳科 (299? Dr. Kusunokyのサインか?) 昭和32年 8月20日他ノ舶来品と共ト補強並ニ白布附換へ
NUM-Ww 381	変色		(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 大正2年5月調 第14号皮膚花柳科 680Dr. Kusunoky 昭和25年6月内部補強 並 表 面清洗. 同. 白布更新 昭和33年9月20日 清洗並ニ白布更新 同時 ニ 補彩ヲ行フ)
NUM-Ww 382	変色 台木7V		(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 明治大正2年5月 調第92号皮膚花柳科 629Dr. Kusunoky 昭和6年5月1日備品番号14 名古屋医科大学付属病院 昭和32年8月更新
NUM-Ww 383	変色 台木7V		(表面) ALFONS KRÖNER ATELIER FÜR MED.LEHRMITTEL BRESLAU XVI. Dermatolog. klinik Breslau. (裏面) 612Dr. Kusunoky ■年■月調第■号皮膚花柳科 昭和25年6月内部補強 並 表面清 洗. 同. 白布更新 昭和33年9月20日清洗 並ニ白布更新
NUM-Ww 384	変色 右, 左脇		
NUM-Ww 385	変色 よごれ		
NUM-Ww 386	良		
NUM-Ww 387	良		
NUM-Ww 388	左足0389と対	℞	
NUM-Ww 389	右足0388と対	℞	
NUM-Ww 390	φ 2 cm ハガレ 少々キズ		

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 391	良 変色		(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作 (裏面) 名古屋医科大学付属医院記号番号第24 ■号皮 ■ (皮膚花柳科の朱印か?)
NUM-Ww 392	良		
NUM-Ww 393	良 カビ		(裏面) 12年9月第16号蠟製模型
NUM-Ww 394	良 1cm色おち1ヶ所		
NUM-Ww 395	良 変色		
NUM-Ww 396	変色		
NUM-Ww 397		右手治療前後	
NUM-Ww 398	良		
NUM-Ww 399	良 微少 2ヶ所色ハゲ		
NUM-Ww 400	変色		(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作 (裏面) 名古屋医科大学付属医院記号番号259号 ■膚花柳科 (皮膚花柳科の朱印か?) (裏面) 名古屋医科大学付属医院昭和6年5月1日備品番号31
NUM-Ww 401	良 カビ		
NUM-Ww 402	良		
NUM-Ww 403	良		
NUM-Ww 404	変色 右手左手対		
NUM-Ww 405	良		
NUM-Ww 406		同一人 左肩と手	
NUM-Ww 407	良 色ハガレ数ヶ所		
NUM-Ww 408	良		
NUM-Ww 409	良 少々変色	右手 左手 2コ	
NUM-Ww 410	良 少々変色		
NUM-Ww 411	良 少々変色		
NUM-Ww 412	裏良 少々変色		(裏面) 昭和33年9月補修並ニ白布更新
NUM-Ww 413	裏良 少々変色		(裏面) Adenome seb (?) aceum ***ずぬ394号 (チョーク書き)
NUM-Ww 414	良		
NUM-Ww 415			
NUM-Ww 416	良 4cm色ハガレ2ヶ所		
NUM-Ww 417	良	2コ顔同人	
NUM-Ww 418	良 1cmキズ		
NUM-Ww 419	良 0.5cm色ハガレ2ヶ所		
NUM-Ww 420	良 0.5cm色ハガレ2ヶ所		
NUM-Ww 421	良 変色 ワレ		
NUM-Ww 422	数mm色オチハガレ複数		
NUM-Ww 423	キズ数ヶ所		
NUM-Ww 424	色ハガレ十数ヶ所		
NUM-Ww 425	色ハガレ数ヶ所		
NUM-Ww 426	良		
NUM-Ww 427	良		
NUM-Ww 428	良 色ハガレ 4ヶ所 微少		
NUM-Ww 429	良 3cmキズ2ヶ所		
NUM-Ww 430	φ5mmあな1ヶ所 ハガレ数ヶ所		
NUM-Ww 431	良		
NUM-Ww 432	良 ハガレ十数ヶ所 (軽微)		
NUM-Ww 433	良		
NUM-Ww 434	変色 ハガレ 数ヶ所		
NUM-Ww 435	ワレ キズ 変色		
NUM-Ww 436	カビ変色		
NUM-Ww 437	良 カビ変色		
NUM-Ww 438	良 キズ ハガレ 数ヶ所		
NUM-Ww 439	良 変色 キズ ハガレ		
NUM-Ww 440	耳朶欠 キズ 数ヶ所		
NUM-Ww 441	変色		
NUM-Ww 442	ハガレ数ヶ所		
NUM-Ww 443	変色良		(裏面) 皮泌科検査室75
NUM-Ww 444	良		
NUM-Ww 445	良		
NUM-Ww 446	良		
NUM-Ww 447	良		
NUM-Ww 448	良		
NUM-Ww 449	良		
NUM-Ww 450	良		
NUM-Ww 451	良 少々変色		
NUM-Ww 452	良 少々変色		
NUM-Ww 453	良 少々変色		
NUM-Ww 454	良		
NUM-Ww 455			(表面) 東京医科大学皮膚科教室伊藤有製作 (裏面) 名古屋医科大学 ■属医院皮 ■柳 ■ (皮膚花柳科の朱印か?) 昭和6年5月1日 64 (チョーク書き)
NUM-Ww 456		(足2ヶ所同一人物)	
NUM-Ww 457	良		

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号	状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww 458	良 変色		
NUM-Ww 459	良		
NUM-Ww 460	良		
NUM-Ww 461	良 (変色?)		
NUM-Ww 462	良		
NUM-Ww 463	良		
NUM-Ww 464	良		
NUM-Ww 465	良		***子 37.6.15
NUM-Ww 466	良		
NUM-Ww 467	良		
NUM-Ww 468	良		***子 37.5.23
NUM-Ww 469	良		
NUM-Ww 470	良		
NUM-Ww 471	良		
NUM-Ww 472	良 変色		(表面) ***太郎名古屋医科大学付属医院昭和16年12月12日備品番号396
NUM-Ww 473	良 変色		
NUM-Ww 474	良 色ハガレ 微少		
NUM-Ww 475	良		
NUM-Ww 476	良 φ0.5 cm色ハガレ		
NUM-Ww 477	良		
NUM-Ww 478	ワレ 変色大 カビ		(表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww 479	良		
NUM-Ww 480	良 撮り忘れ		
NUM-Ww 481	カビ変色 1 cm ワレ		
NUM-Ww 482	ハガレ 変色		
NUM-Ww 483	カビ 良		
NUM-Ww 484	変色少し		
NUM-Ww 485	良		
NUM-Ww 486	良		
NUM-Ww 487	20 cmワレ大		
NUM-Ww 488	カビ大		
NUM-Ww 489	良		
NUM-Ww 490	変色		
NUM-Ww 491	カビ良		
NUM-Ww 492	良 色オチ (少々) 2ヶ所		
NUM-Ww 493	ワレ 数ヶ所		
NUM-Ww 494	良		
NUM-Ww 495	良 ヨゴレ 変色		
NUM-Ww 496	変色 病名なし		
NUM-Ww 497	変色 病名なし 3 cmキズ2ヶ所		
NUM-Ww 498	変色 病名なし カビ		
NUM-Ww 499	変色 病名なし	499と同じ部位だが少し違う 治療後か? 布どめ不完全	
NUM-Ww 500	変色 病名なし		
NUM-Ww 501	変色 病名なし		
NUM-Ww 502	変色 病名なし		
NUM-Ww 503	φ1 cmハガレ病名なし		
NUM-Ww 504	コワレ変色 病名なし カビ 布なし ワレ多数		
NUM-Ww 505	良	505, 506同じ箱	箱
NUM-Ww 506	良	505, 506同じ箱	箱
NUM-Ww 507	良		箱
NUM-Ww 508	良	508, 509同じ箱	箱
NUM-Ww 509	良	508, 509同じ箱	箱 撮り直し
NUM-Ww 510	良		箱 撮り直し
NUM-Ww 511	良		箱 撮り直し
NUM-Ww 512	良		箱 撮り直し
NUM-Ww 513	良		箱 撮り直し
NUM-Ww 514	良		箱 撮り直し
NUM-Ww 515	良		箱 撮り直し
NUM-Ww 516	良	516, 517同じ箱	箱
NUM-Ww 517	良	516, 517同じ箱	箱
NUM-Ww 518	良		箱
NUM-Ww 519	良	519, 520同じ箱	箱
NUM-Ww 520	良	519, 520同じ箱	箱
NUM-Ww 521	良	521, 522同じ箱	箱
NUM-Ww 522	良	521, 522同じ箱	箱
NUM-Ww 523	良		箱
NUM-Ww 524	良		箱
NUM-Ww 525	良		箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。

表1 (続き)

標本番号		状態	その他気づいたこと	ラベル等記載文字
NUM-Ww	526	良		箱
NUM-Ww	527	良		箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww	528	良		箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww	529	良		箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww	530	良		箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww	531	良		箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww	532	良	532, 533 同箱	箱
NUM-Ww	533	良	532, 533 同箱	箱 (表面) 名古屋医科大学皮膚科泌尿器科学教室
NUM-Ww	534	良		箱 (表面) 愛知県立医学専門学校皮膚科教室長谷川兼太郎製作 Prof. H. TAMURA, NAGOYA

患者名は、個人が特定できないよう「\*」を使用した。判読出来ない文字は、「■」とした。